

平成30年度

岐阜県青少年赤十字
防災教育推進校報告書



平成30年度 防災教育推進校

岐阜市立陽南中学校，美濃加茂市立伊深小学校

はじめに

青少年赤十字では、子どもたち一人一人が「人道」「博愛」の心を大切にし、人類の幸せや世界のために尽くせるような人間になるための取組として、**健康・安全、奉仕、国際理解・親善**の3つを実践目標として掲げ活動しています。

日本赤十字社本社においては、この「実践目標」の一つである「健康・安全」のもと、防災教育をおおして自然災害から青少年の健康と安全を守ったり、また、学校、地域、家庭における防災意識を高めたりすることで、人間のいのちと健康や尊厳を守ることを目的として、防災プログラム及び教材の開発、研究を進めています。

その成果の一つとして、**防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」**（冊子）を作成しましたので、平成27年に岐阜県内のすべての加盟校に配布させていただきました。

今回、日本赤十字社岐阜県支部におきましても、教育現場においてこの冊子を活用した実践的、先進的な取組を支援し、防災教育の発展、普及を目指すことを目的に、加盟校を対象に**「青少年赤十字防災教育推進事業」**を実施することとしました。

また、該当校で実践する際には、子どもたちには色々な側面から「気づき」、「考え」、「実行する」という青少年赤十字の態度目標を意識するよう努めていただきました。

本報告書では、子どもたちが多くの人と出会い、学び、様々な体験や発見等を通して、「将来起こりうる自然災害に対しての正しい知識をもち、自ら考えて判断し、危険から身を守る行動をとれるようになること」、「いのちの大切さ、他者への思いやり」を学んだ貴重な実践が数多く綴られています。

この報告書が、「貴校の子どもたちや保護者、校区の皆様の防災意識の向上」の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本事例集をまとめるにあたり、貴重な実践をご紹介いただき防災教育推進校の校長先生方にお礼を申し上げると共に、ご多用の中、原稿の執筆等にご協力いただきました先生方には心より感謝を申し上げます。

2019年4月1日

岐阜県青少年赤十字指導者協議会

日本赤十字社岐阜県支部

【表紙の書】 岐阜県教育委員会教育長賞
各務原市立那加中学校 丸毛 亜朱巴 さん

岐阜市立陽南中学校

学 校 名	岐阜市立陽南中学校 (校長 松村 敏幸)
活動の種類・単位	防災教育について、1年生生徒が専門機関との連携を行い、地域へ情報を発信する活動に取り組んだ。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

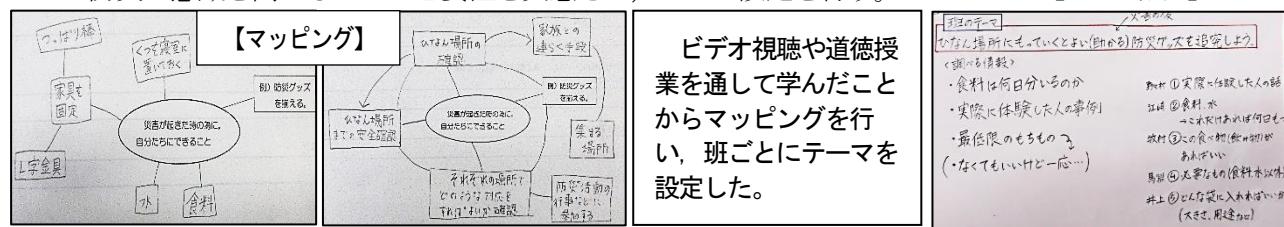
1 活動テーマ

災害が起きた時、自分たちにできること

2 主な活動内容

① 各班で防災に関するテーマの設定をする。

- 生徒に災害を自分事として捉えられるように、ビデオ視聴と道徳授業を行う。
- ビデオ視聴…『まもるいのち ひろめるぼうさい』『南海トラフ巨大地震 CG映像 2018』災害の恐ろしさ、南海トラフが起きたらどうなるのかを考えさせ、災害に対する危機感をもたせる。
- 道徳…資料『日本人としての自覚 文化的継承と創造』を使って授業する。
災害が起きた時の日本人の行動から、防災への興味・関心を更に高め、夏休み中の調べ学習への意欲付けにする。
- 防災の意識を高めることの必要性を実感させ、テーマ設定を行う。



② 設定したテーマをもとに、テーマに合わせて校外学習を計画、実施する。

【校外学習先一覧とそのねらい（一例）】

校外学習先(一例)	ねらい
岐阜総合医療センター	医療センターの仕組みや役割、隊員が到達するまでにできることは何かを教えて頂く。
日本赤十字 岐阜県支部	中学生でもできる止血法、AEDの使い方を教えて頂く。
地域防災減災センター	専門家の方から、地震の際にどのような対応をすればよいか教えて頂く。
岐阜市役所都市防災政策課	防災倉庫の中身を確認、利用して、避難所を設営する方法を教えて頂く。
岐阜南消防署	地震の際の二次災害や、避難所の設営などについて、HUGを通して教えて頂く。
加納西小学校防災倉庫	加納西小学校の敷地内にある防災倉庫の中身を見せて頂き、説明して頂く。
岐阜市役所建築指導課	地震に強い建物とは何か、今からできる地震への備えとは何か教えて頂く。

【校外学習の様子】

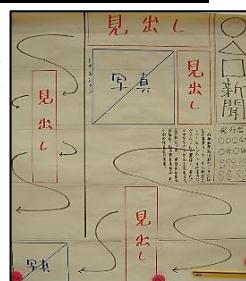


地域の商業施設で、防災グッズの使い方や売れ筋を調査した。



日本赤十字岐阜県支部にて、止血法やAEDの使用法を聞いた。

③ 校外学習で得た情報をもとに、自分たちで情報を整理するために、岐阜新聞社の方から情報整理の仕方を学ぶ。



▲ 【情報整理の仕方を学ぶ】 講師:岐阜新聞社

- ④ 整理した情報を活用してHUG訓練を行い、調べた情報が適切かを分析する。

講師：岐阜大学 地域減災研究センター
特任准教授 村岡治道 氏

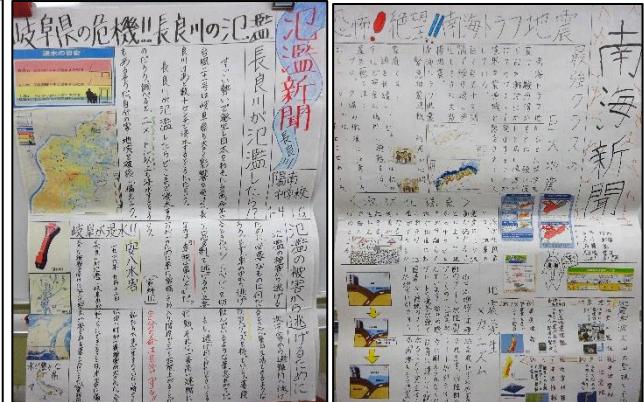


▲【専門家の意見から、追究内容を見直す】

- ⑤ 整理した情報をかべ新聞にまとめ、各学級で発表する。

【一連の学習を振り返って】

- 専門家との連携を通して、まとめる視点が明確になり、生徒自身で新聞をつくることができた。
- 「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用することで、防災の種類や対策について幅広く知識を得ることができた。
- 知識だけでなく、「学び方」を習得することを重点に置いて指導したこと、他の教科のまとめ等にも学んだことを活用することができた。



▲【かべ新聞の一例】

作成したかべ新聞を岐阜新聞社主催「かべ新聞コンクール」に応募し、地域への情報発信を行う。

- 今年度は、3点の作品が入選に選ばれた。



3 「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用した公開授業

(1) 公開した学級等

学年	学級数	児童生徒数	主な参観対象者	合計
1	5	157名	生徒、教職員、保護者(約100名)	約260名

(2) 授業者、生徒の感想等

【生徒の感想】

昨日には災害がたくさん起つていろいろなことが分かりました。それには様々な自然環境が影響していたので、まもるいのち ひろめるぼうさいを見て、分かったことで自分たちにできることを生活の中で生かしていくようにしたいです。

(感)私は、岐阜市、または岐阜県は津波が来なかつたとしても、地震の時にやなええものは大切で、火災も多く、危険が多かったです。とても怖かったです。

授業と生活をつなげよう
地震が来ても大丈夫にするために、ひなんけいじを確にしたり、地震が来たらじゅうげん動をしていいければいいのかを、日々からかくにんじた。

【授業者の感想】
ワークシートや映像の内容が生徒の発達段階と合っていて使いやすかった。広く知識を得られる点がよかったです。

4 成果、効果等

- 「まもるいのち ひろめるぼうさい」は映像やワークシート等、そのまま授業で活用できるので授業者として大変使いやすい。また、生徒も防災に関する様々な情報を得ることができるので防災教育を行う際に有効である。
- 「まもるいのち ひろめるぼうさい」の内容は、社会や理科、道徳といった内容にも組み込むことができると感じた。総合的な学習の時間以外でも防災教育を行っていくことが生徒の意識向上につながるので、今後はさらに計画的、系統的に使用できるようにしたい。

美濃加茂市立伊深小学校

学 校 名	美濃加茂市立伊深小学校（校長 深尾 鉄明）
活動の種類・単位	災害時や風水害時に、全校児童が自分の命を自分で守るための必要な知識を身に付け、自分で考え、自分で判断し、自分で行動する力を育成した。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、行事等

1 活動テーマ

自分の命は自分で守ることができる子を育てる

2 主な活動内容

大規模地震による災害時や風水害時に、自分の命を自分で守るための必要な知識を身に付け、自分で考え、自分で判断し、自分で行動する力を育成するために次のような取組を行った。

（1）防災デイキャンプ

＜日 時＞10月19日（金）3校時～6校時

＜参加者＞5・6年生18名

① 災害時の非常食作り

日本赤十字社岐阜支部のハイゼックス炊飯袋を活用して「たまごカレーライス」を作った。市役所伊深連絡所の備蓄倉庫にあるハソリを借用し、ご飯と野菜入りのカレールー、ゆで卵を作った。どの児童もとてもおいしく作ることができた。ハイゼックス炊飯袋を活用することで、簡単に、しかも温かい物を作ることができることが理解できた。



② 防災学習『防災講話』

岐阜大学地域減災研究センター特任准教授の村岡治道先生に来校いただき、「家庭内D I G」と題して、自分の命を自分で守る方法についての講話をしていただいた。地震によって家具や棚がどのようになるのかを実際の映像で説明し、自分の家の中の家具や棚の配置を図に表し、危険個所をチェックしながら、どの位置に逃げるのがいいのかを考えることができた。また、地震から身を守るために「ダンゴムシのポーズ」についても、実際に動作しながら考えることができた。そして、家庭における防災として、家具の固定や、必要のない物の移動、飛散防止フィルムを貼ることなどを家族で一緒に取り組むことも考えた。



③ 防災活動『飛散防止フィルムの貼付作業』

学校職員のスクール安全サポーターさんから飛散防止フィルムの貼り方を教えていただいた。ガラスをきれいに掃除してから、専用ののりを使って貼付する。大変な作業だったが、協力して貼ることができた。とてもいい体験をすることができた。このことにより、各家庭でも飛散防止フィルムの貼付作業をするとよい。



(2) 親子防災教室

<日 時> 11月4日（日）10：30～11：30

<参加者> 全校児童62名、教職員15名、保護者35名、地域住民30名

<講 師> 岐阜大学地域減災研究センター 特任准教授 村岡治道先生

<演 題> 「通学路や地域に潜む危険」

全校児童親子で、防災に関する講話を聞いた。普段通学に使っている道路にも、たくさん危険があることが分かった。大規模地震の後の実際の写真や映像を見せていただき、危険性がよく伝わってきた。ブロック塀や古い家屋、看板や大木など、普段からよく確認しておき、いざという時に、たとえ1mでも危険を回避する行動をとることが重要であることがよく分かった。自分の命は自分でしか守れないこともよく分かった。今回は、保護者や地域の方々も一緒に聞くことができ、地域で防災について考えるきっかけとなった。



3 「まもるいのち ひろめるばうさい」を活用した公開授業

①公開した学級等

時期	学年	学級数	参加人数	項目等	時期	学年	学級数	参加人数	項目等
4月	1	1	14人	地震災害		3	1	7人	風水害
5月	2	1	10人	地震災害		6	1	5人	風水害
6月	1	1	14人	風水害		10月	5, 6	2	防災デイキャンプ
	2	1	10人	風水害		11月	全校, 保護者, 地域	142人	親子防災教室
	4	1	13人	風水害					
	5	1	13人	風水害					

②児童・生徒、授業者、参観された方の感想等

<防災デイキャンプ>

ハイゼックス包装食づくりでは、電気が使えなくなった時に、炊飯器を使わなくてもお米をたく方法を初めて知りました。災害時は水道が使えなくなることが多いので使い捨ての皿を使って、水を節約することができるようになりました。実際に災害が起きた時には、今日学んだことを生かしたいです。

家庭内の危険についての話では、実際の映像を見た時に、棚が次々とたおれ、物があちこちに動いていて、とても驚きました。地震はいつ起きるか分からないので、しっかりと早めに対策をしないといけないと思いました。地震が起きたら、必ずしも机の下が安全だということではないということも分かりました。まずは、上と身の周りを確認して安全に行動できるようにしたいです。

飛散防止フィルムを貼る活動では、貼り方はそんなにも難しくはないということが分かりました。ガラスが割れた時、飛び散らなくて安全なので、家のガラスにも貼りたいです。今からしっかりと対策をして、自分の身を守れるようにしたいです。

<「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用した授業>

- ・教室の中にもいろいろな危険なものがあることがわかりました。大きな地震が起こったら、周りをよく見て、行動したいと思いました。(2年児童)
- ・緊急地震速報がなったら、すぐに自分の命を守る行動をしたいと思いました。(2年児童)
- ・定期的に、命を守る訓練やシェイクアウトの訓練をしているので、危険を予知する力や自分の命を守る行動力が身についてきており、いろいろな場面を想定した学習でもしっかりと考えることができた。(授業者)
- ・実際の映像も見ることができ、「まもるいのち ひろめるぼうさい」の良さがよく分かった。今後も活用していきたい。(参観した他の学級担任)

4 事業の成果、効果等

- 岐阜大学地域減災研究センターの村岡先生の講話は、子どもを引き付けるものであり、集中して聞くことができた。また、実際の場面を想定して、自分のこととして考えることができ、本当の防災の力につながっていく感じた。さらに、聞く学習だけに留まらず、実際に動きを確認したり、目視で確認したりする行動を伴う学習もあり、防災への意識が高まっていると感じた。
- 親子で一緒に防災について考えることで、家庭の話題の一つになり、実際に大規模地震の発生時に、家庭ではどう行動するのか、別々にいた場合にどこに集合するのかなど、親子で考え合うきっかけとなった。
- 「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用して、『風水害』の学習をしたことで、日頃の登下校時に気をつけることを考え、災害への意識が高まった。特に、高学年は、リーダーとして分団の下級生を守ることへの意識も生まれてきた。

【トピックス】

防災教育推進の交付金は、主にこんな物に活用されました。

- 講師謝金等
- 備品 (ワイヤレスアンプ、マイク、ワンタッチテント、デジタルビデオカメラ、デジタルカメラ、ヘルメット等)
- 消耗品 (模造紙、飛散防止フィルム、食材等)

※ 防災教育を進めるにあたり、学校現場が必要だと考えられた物を購入いただき、有効に活用していただきました。



ちかい

わたくしは

青少年赤十字の一員として

心身を強健にし

人のためと郷土社会のため

国家と世界のために

つくすことをちかいます

平成30年度

岐阜県青少年赤十字研究推進モニター校活動事例集

2019年4月1日発行

日本赤十字社岐阜県支部

〒500-8601 岐阜市茜部中島2-9

TEL (058) 272-3561 FAX (058) 274-6938